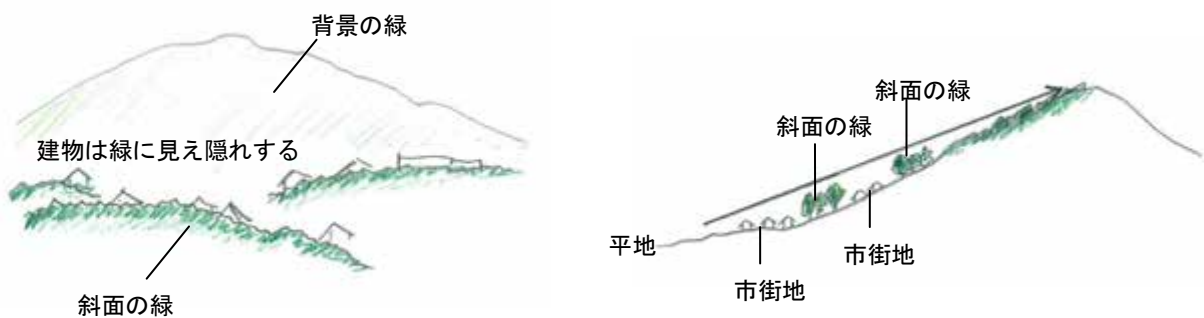


【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを、感じてみましょう



緑の中に溶け込む建物



生駒の市街地は、大きく竜田川と富雄川の流域を中心とする二つの谷筋でつくられています。

谷底の平地から見上げると、斜面の樹木・樹林があたかも「緑の帯」のように市街地を覆い隠し、背景の生駒山や矢田丘陵、西の京丘陵の緑とあいまって、あたかも「緑の中に市街地がとけ込んでいる」ように見えます。

この眺めが、「緑につつまれたまち生駒」を強く印象付けています。

コラム：「見え隠れ」の美学

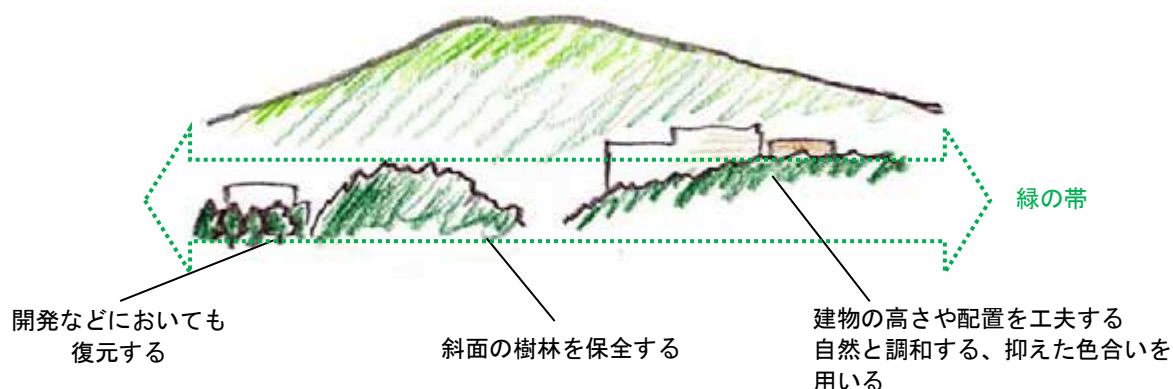
緑のなかに溶け込み垣間見える建物は、視点が動くにつれてはっきりと見えたり緑の後ろに隠れたりします。このような状態を「見え隠れ」と言います。また、日本では古来より物陰からちらりと見えたり、薄暗いなかにほのかに見えたりするところに美を見出す、独特の感覚が受け継がれていると言われています。

緑につつまれた生駒のまちには、私たちの心に訴える「見え隠れ」の美学が息づいていると言えるのではないのでしょうか。

* * *

【生駒らしさをつくるために守るべきこと】

- 谷底から見上げた時に見える斜面の樹林は、緑の帯として、たとえ少量であっても大切にし、保全しましょう。
- 緑の帯が損なわれることのないよう、開発などの際にあっても緑化などによりできる限り復元しましょう。
- 竜田川と富雄川の二つの流域がつくる谷底からは、どこでも背景の緑が見えることを意識し、緑にとけ込むように、建物の高さや配置を工夫する、緑となじむ色彩や材料を使う、前面に植栽を厚く配置するなどしましょう。



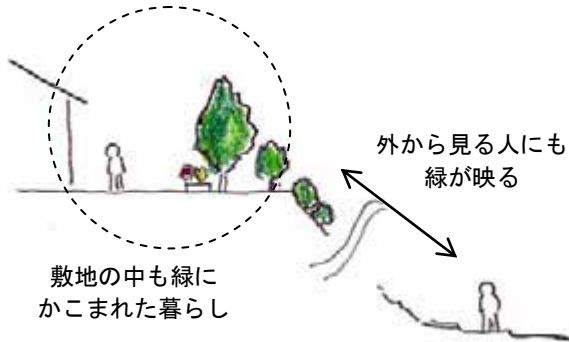
【生駒らしさをつくる工夫】 こうしたこと、やってみませんか??

身近な工夫

緑につつまれた暮らしは、気持ちも良いですし、まちにもうれしいこと。

○敷地のなかで植栽するときは、斜面の谷の方にできるだけたくさん樹木を植えたり、生け垣にしてみましょう。

○見晴らしのよい場所は逆に周りからもよく見えます。下から見られていることも意識しながら、緑につつまれた暮らしを楽しみましょう。



みんなで工夫

ひとりで維持・管理は大変。でも、みんなでもできることもあります。

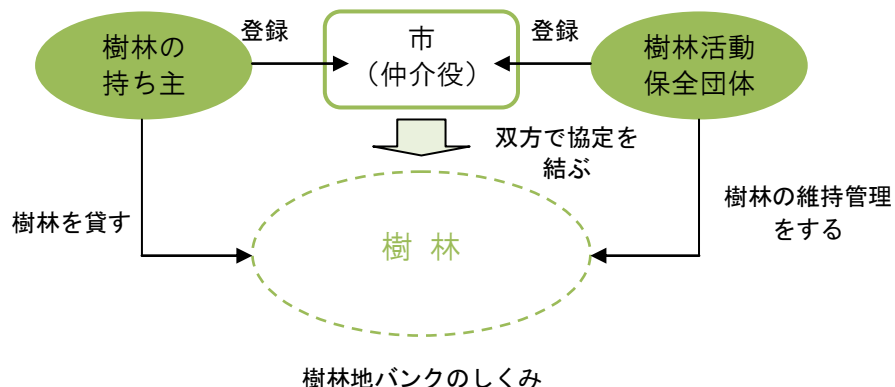
○樹林地をひとりで維持・管理するのは、負担も大きく、やむなく手放すことになってしまいがち。でも、地域のみんなや、自然が好きな市民活動団体などが手助けしてくれる、そんなしくみもあります。



<活動紹介：鹿ノ台自治連合会

「ECOKA 委員会」>

近年の住環境への住民意識の高まりとともに、量的な緑環境より緑地全体の質的向上を実現するため、平成20年に「ECOKA 委員会」を設立、住宅地の周りに12箇所ある保存緑地（12ha）の森の再生に向け、協働・連携のもとで計画的に整備（下草刈、間伐、植樹）しています。



設計・
計画で
工夫

緑の帯を損なう開発は最小限に。いろんな工夫を取り入れて。

○既存の樹林地はできるだけ残しましょう。それも、できるだけ谷側の樹林地を残すことが、緑の帯をつくるポイントです。緑視率（みどりの見える割合）を意識して、谷側から見てできるだけこの率が高くなるような工夫を考えてみましょう。

○屋根の形状や、建物の配置の仕方、デザインの仕方でも、緑とのとけ込み方が変わってきます。

【樹林地の保全】



【建物の配置】



【屋根の形状】



【緑化】



【色彩】



緑視率とは??

見える範囲における草木の緑の割合で、まちなみや地区など広い範囲を対象にしたときの指標として用いられています。

例えば、下の写真ですと、左側が約80%、右側が約50%となり、左側の方が寄り緑の印象が高まります。



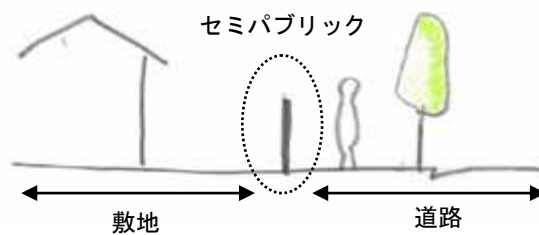
【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを、感じてみましょう



左上：生け垣が連続する街並み（住宅地）

右：オープン外構の街並み（住宅地）

下：高低差を利用した「しきり」集落



敷地と道路が接する「敷際」は、プライベートとパブリックのつなぎ目で、いわば「セミパブリック」な空間です。

際の「しきり」方によっては、プライベートとパブリックを「やわらかく」しきったり、「かたく」しきったりでき、その一軒一軒のしきり方が通りの印象に大きく影響します。また隣の敷地の敷際と、緑や壁面でうまくつながれば、一体感のある通りを演出できます。

敷際のしきりの雰囲気が全体として調和している通りは、印象的なまちなみになります。

* * *

【生駒らしさをつくるために守るべきこと】

- プライベートが見えなくするという視点だけでなく、通りをどういう印象にしたいのかも意識して考えましょう。集落ではやわらかいしきりにして親密な印象に、敷地規模の比較的大きい住宅地ではかたいしきりにして風格ある印象にするなど、通りの特徴によってしきり方を工夫しましょう。
- 連続感のある心地よい通りになるよう、緑やちょっとした空間などの配置を工夫して、隣近所の敷地と積極的に「つなぐ」ことを心がけましょう。



コラム：ほどよい「しきり」って？

敷際は、パブリックとプライベートのつなぎ目にあたります。

敷際に何も置かなければ、個人の生活があげすけに目についてしまいます。一方で、塀や垣で完全に遮蔽してしまうと、通りを行き交う人に圧迫感を与えてしまいます。

材料や設置方法は色々ありますが、暮らしの露出をある程度避けつつ、暮らしの息遣いは伝わるような、そんなしきりが理想的です。

【生駒らしさをつくる工夫】 こうしたこと、やってみませんか??

身近な
工夫

敷地の内と外で、つながりを育む「しきり」に。

- 敷地の内と外でお互いの様子が分かる程度に、柵や塀、樹木などは隙間のあるものにするか高さを押さえましょう。
- 通りを往来する人とのコミュニケーションのきっかけになる仕掛けとして、花を配置するなどして演出してみましょう。



みんな
で工夫

敷地の工夫は、みんなでやると効果大。

- 通りに住む人たちが、しきりとつなぎを考えていけば、通りの印象は大きく変わります。一人ひとりの心がけを、言葉として表しルールにしておけば、新たに住むことになった人にも、理解しやすくなります。



緑地協定等の制度を使ってルールをつくり、みんなで力を合わせて、気持ちのよい通りの景観にしていくことができます。

設計・
計画で
工夫

しきりとつなぎは、周りの敷地とのバランスで。

- 親密な雰囲気のある住宅地では、塀や垣でしきる時は、「やわらかい」雰囲気のしきりになるようにしましょう。敷地規模が大きく風格のある住宅地では、周りを見ながら「かたい」雰囲気のしきりを取り入れましょう。
- 近隣の敷地の敷地を見て、緑の連続やちょっとしたスペースの連続、壁面の連続など、いいつなぎ方があるかを考えましょう。

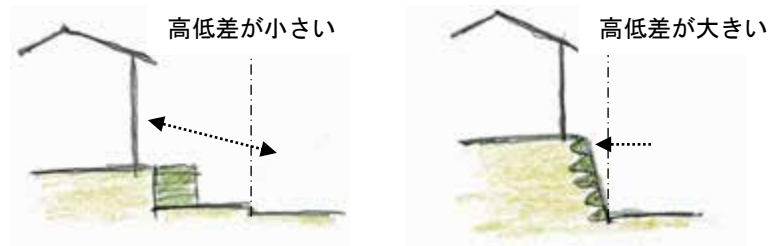
【「しきり」の方法】

やわらかいしきり ←————→ かたいしきり

緑でしきる



高低差でしきる

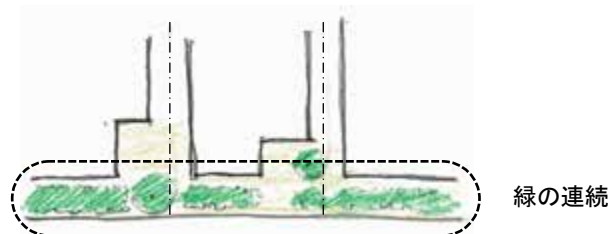


塀や垣でしきる

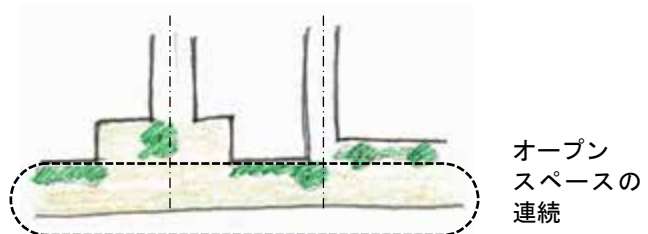


【「つなぎ」の方法】

緑でつなぐ



オープンスペースでつなぐ



壁面でつなぐ

